

各セクションの報告・情報

# THE・現場

## おかし屋ぱれっと

### ～通所員勤続表彰式 &サプライズ職員表彰式も!?!～

5月25日地域交流センター恵比寿にて定期総会が開かれ、その後におかし屋ぱれっと・工房ぱれっとメンバーの勤続表彰式が行なわれました。今年2名のメンバーが表彰されました。

勤続年数15年の宮沢好彦さんは、おかし屋ぱれっと(以下おかし屋)で作ったクッキーなどを様々な場所に納品したり材料の買い出しや郵便物を出しに行ったりとアクティブに活躍し、おかし屋の足腰として力強く働かれています。

勤続年数10年の照井美貴さんは主にパウンドケーキの製造やクッキーの袋詰めやシール貼り、レーズンやくるみのカットなどを行っています。湯煎しながら混ぜていく必要があるため他のケーキよりも少し難易度の高いガトーショコラ作りにもこれから挑戦したいと目標を持っていて、どんな作業も意欲的に行なわれています。

お二人は普段は作業着に身を包んでいますが、この日は素敵に正装していました。表彰状と花束を授与され満面の笑みを浮かべていたのが印象的でした。記念撮影でカメラを向けられると緊張のため笑顔が強張ってしまったのはほほ笑ましいなと思いました。

表彰式の表彰式はここで終了の予定でしたが今年も去年に引き続きサプライズが!おかし屋のメンバーの扇山さんと工房ぱれっとメンバーの黒沢さんが表彰状を持って前に現れ、勤続10年の

所長である玉井さんが呼ばれました。

表彰状に書かれていた言葉は「長年汗と糸にまみれて・・・」などユーモアに溢れていて、聞いている我々にも思いやりと楽しさが伝わってきました。

このサプライズがどんな風に水面下で計画されていたのか知りたくて扇山さんにインタビューしてみました。

\*\*\*\*\*

Q.「サプライズの表彰をするのは誰のアイデアでしたか？」

A.「相馬さんだと思います」

Q.「表彰状を読むのも大変ですが、いつ練習しましたか？」

A.「当日に会場の外で、玉井さんを泣かせようと頑張って練習しました」

\*\*\*\*\*

練習する時間が短かった中で、それを感じさせない堂々とした発表ぶりでした。表彰された玉井さんは驚いていましたが、二人のメンバー同様とても嬉しそうな表情でした。

表彰されるまで数年の若手メンバーの中にはそれを励みにしている人もいて、「あと〇年!」という言葉が最近よく耳にします。こうしたことをきっかけに目標を持って日々の仕事に取り組んでいけたらより張り合いのある毎日が過ごせるのでは?と感じました。

表彰された皆さん、おめでとうございました!(おかし屋ぱれっと

井上 ムハンマド・小柳(香)

## たまり場ぱれっと

～ドレミファダンスコンサート  
6月16日(日)応援&出演  
～みんなでレッツダンスト～

JR駄ヶ谷駅からすぐのところにある、東京体育館でドレミファダンスコンサートが行なわれました。今年もサンシャインダンスが出演をし、応援にたまり場開放日のメンバーが来てくれました。今回は第25回記念大会ということで、表参道でのパレードがあったり、来賓には佳子内親王殿下がお見えになったりと、盛大で華やかな会となりました。このダンスコンサートは、障がい者ダンスチームの出演だけではなく、吹奏楽の演奏や“よさこい”、フラダンスなど様々な出演団体があります。その中でも注目を集めていたのは、男子大学生によるチアリーディングのパフォーマンスでした。サンシャインダンスのメンバーも負けなくらい、かっこいいヒップホップダンスを披露し、少数精鋭ながらインパクトのある本番となりました!! (たけい)

## ぱれっとホーム

～プチお出かけ  
灼熱渋谷編～

6月13日夕方に、しぶや・ぱれっとホームの坂本さんと「プチお出かけ」しました。目的は渋谷という都会ジャングルの中、ご本人希望の「夏先取り!派手めTシャツ」を探して購入しようという事でした。都営バスに乗り込み、Tシャツゲットに向けて作戦会議をしながら出発です。とにかく人が多い渋谷ですから、安全に注意しながら人込みを掻きわけて勇敢に二人は進みます。しばらく散策しましたが、爽やかなキレイ目Tシャツばかり……。もてめている「派手T」はなかなか見つかりません。その時、あるファストファッション店の店先でインパクトのあるコーナーを発見!無事に素敵なお手頃Tシャツを購入することが出来、坂本さんも満足気でした。今回も楽しいお出かけになりました。(やまなか)

## ぱれっとインターナショナル・ジャパン(PIJ)

～スリランカとの  
オンラインミーティング～

1999年、PIJ創設のきっかけとなったのは、スリランカに現地の障がい者が働くクッキー工場を作るというプロジェクトでした。以降、政情不安や資金調達の困難さもあって2009年にぱれっとのプロジェクトとしては閉鎖に至りましたが、現地の大きな製菓会社が障がい者とスタッフを引き続き雇用してくださり、15年経過した現在も経営を続けています。先日久しぶりに現地スタッフとオンラインミーティングを開き現状について聞いてみると、ここでも日本と同じ「親亡き後」の課題が、日本のようなグループホームの制度は無く、あるのは退職後の入所施設。しかもほとんどが高齢者に向けたもので、そこから仕事に通うという考え方が存在していませんでした。ぱれっととしてそこに何が出来るか、早急に考える必要を痛感しました。(そうま)